



坂井地区 家庭教育支援チーム

No.
027

シリーズ 小学校最後の3年間が未来を決める

保護者というより「相談役」

10歳以降は、親は子どもに対して保護者というより、「相談役」という立場に変わっていくのが理想です。

一方的に指示命令する上下関係ではなく、対等に話をする関係です。そうすることで、子どもは自分の頭で考えるようになり、自立心を育てることが出来ます。

ただし、しつこいことに關しては、そうしたことはあまり考える必要はありません。むしろ、親が頑固にさ

せるところに意味があります。

親が家庭のルールとして決めたことは何があっても子どもに守らせる、というやり方がうまくいきます。

人に会ったら挨拶をする、玄関に上がるときは靴を隅にそろえておく、歩きながらものを食べない、目上の人にはいていねいな言葉遣いで話す…などといったことです。

子どもは何かをしなくないときに、すぐに「なんで」とか「どうして」とか言います。



しかし、ここで子どもの質問に理屈で説明しようとするのはよいやり方とは言えません。



「なんで、そうするの」「どうして」には、答えでなく親の信念を。

4月からの新しい 学校生活に向けて 今できること

4月からの新しい生活に向けて、今は準備期間です。ではこの間にどんなことを大切に、どんな生活に心がけるといいのでしょうか。

先輩ママたちの声から、ヒントになることをまとめてみました。

【小学校に入学されるお子さんには…】

- 通学路を親子で歩いてみました。危険な箇所や交通ルールの確認をすることができました。
- 自分の名前がひらがなで書けるように、練習しました。
- 自分の気持ちが言葉で伝えられるように、普段の会話を大切にしました。特に、困ったときや泣いたとき、「どう思ったの?」「どうしたかったの?」と気持ちを聞くようにしました。
- 「長い針が〇になったら、ご飯にしようね。」と声をかけながら、時計をみる意識をもたせるようにしました。

【中学校に入学されるお子さんには…】

- 中学生になると、部活や習い事、勉強で忙しくなるので、家に帰ってからの過ごし方をもう一度、一緒に考えてみました。宿題やテレビの時間、お風呂の時間などのスケジュールを考え、自分で時間の管理ができるようにしてみました。
- 中学生になったら、小学校生活とどんな違いがあるのかを、自分の体験もふまえて、親子の話題にしてみました。
- できる範囲で小学校の勉強を復習するように伝えました。苦手な教科を中心に取り組めるように見届けました。



親が、あることに關しては頑固だったということは、子どもが成長するにつれ、だんだんとその価値に分かってくるものです。

子どもと対等に話をする「相談役」でありながら、一方でしつこくに厳しくもある。そんな親でありたいです。



1つ進級した子には

お子さんの実態に合わせ、親子で一緒に取り組んでみることで、より大切なこと、そして、少しでもできたこと、がんばってやることを具体的にほめてあげましょう。失敗したり、うまくいかなかったりしても、「大丈夫だよ。少しずつでいいから」と励ましてあげましょう。



- ① 早寝・早起き・朝ごはんの習慣を身につけさせましょう。
- ② あいさつ返事でコミュニケーション力を培いましょう。
- ③ 前向きな言葉をかけ、夢や期待を膨らませてあげましょう。

わが家の「にこにこ」日記

今年もたくさんの応募をいただき
ありがとうございました。

◆ すてきなピアノ賞 ◆

わが家の「にこにこ」日記 代表作品

サプライズ!! 東十郷小 四年 牧田菜緒

私と弟はピアノを習っています。お母さんのたん生日にサプライズでピアノのプレゼントをするために、ピアノの先生に「ハッピーバースデー」を教えてもらいました。お父さんと弟とお母さんに見つからないように、こっそり練習をしました。お母さんのたん生日にピアノをひいたらお母さんはうれしかったみたいで泣いていました。来年もお母さんにサプライズをしたいです。

